



はてしなく続く

はるか

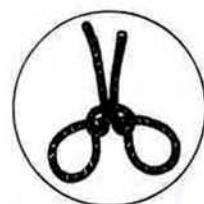
悠なる神の正道

会報 む す び

第 15 号

[発行所]
栃木県青年神職むすび会
会報編集委員会

[発行人]
上野喜則
[印刷所]
(有)アート美術印刷
平成3年8月吉日印刷



目次

会員各位のご協力と励ましの中で.....	2
第四十回・一都七県関東地区総会.....	3
平成元年度事業報告.....	4
奉祝 御大典・紀元二六五〇年(特載).....	5
県内神社記念事業紹介.....	5
乃木神社別邸被災.....	8
権原神宮紀元二六五〇年祭.....	10
平成二年度事業報告.....	12
新役員及び幹事.....	13
新会長挨拶.....	14
関東地区理事就任挨拶.....	15
各種委員会.....	16
会員神社・祭礼紹介 「塩竈神社」.....	17
「今宮神社」.....	18
「平出神社」.....	19
「根裂神社」.....	20
「駿宮神社」.....	21
むすびの声「蹲踞」「神恩感謝」.....	22
結婚・第一子誕生.....	23
新入会員紹介.....	24
退会者及び移動者、編集後記.....	26

「会員各位のご協力と励ましの中で」

栃木県青年神職むすび会 前会長



若松 豊明

去る昭和六十二年春に開催の臨時総会において、柳田会長さんの後、会員の皆様のご推挙をいただき、会長に就任させていただきました。してより四年の歳月が過ぎました。

この間、力不足の私を補佐していただきました役員の皆様を始め、会員の皆様、又、事あるごとにご指導ご協賛を賜わりました諸先輩並びに神社関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

思えば、昭和五十二年に当会に入会させていただき、十四年間先輩の方々のご指導により大変勉強になりました。

入会の年が丁度、むすび会の創立十五周年の記念の年に当たり、バイタリティーあふれる黒川正邦会長を始め、矢野忠弘氏、阿部健氏、事務局に阿久津誠生・柳田耕

太西氏と錚々たるメンバーが揃つており、私のようなひよ子は何をして良いのかわかりませんでしたが、この様な立派な先輩の方々に巡り会え、ご指導いただきましたこと私にとって大変ありがたく運が良かつたと思います。

当時、黒川会長を中心には員が一丸となって記念大会や大和

國古社めぐり等の記念事業について、神社の森を育てる運動植樹等を始めとして諸活動についていろいろ議論されていましたが思い出されます。それぞれ個性のあふれる諸先輩であったと思います。

又、初年度より継続事業として、植樹を実施し神社厅、白鷺神社、賀茂別雷神社、胸形神社、祖母井神社、伊勢神社（六十二年）氏家今宮神社、塩釜神社、黒磯神社、宮原八幡宮、八雲神社、森友美氏、柳田耕太氏と立派な会長に恵まれ、本会が益々充実して来ました事は皆様ご承知の通りでござります。

さて、私が就任させていただいた初年度は、本会が創立されてより二十五周年の年に当たり、実行委員会を設け、委員長には斎藤芳史氏にご就任願い記念大会を実施、翌々年度には、神青協一都七県関東地区総会を主管する年度に当たり那須に於いて開催いたしました。

ふり返ってみれば、これらの諸事業の実施に際しては先輩の残されたすばらしい業績と基盤があり会員の皆様のご協力と励ましがあったればこそ成し遂げられたものであり、夫々の事業を企画実行していただきました事重ねて御礼申し上げます。

今後共、諸活動に一人でも多くの会員が参加され、上野喜則新会長のもと本会が益々発展されることを祈念し、併せて神社関係の皆様には、本会に対し変わらぬ御高配を賜ります様お願い申し上げ退任のご挨拶いたします。本当にありがとうございました。

安住神社、鶯子山上神社、静神社、乃木神社、大田原神社、鹿沼今宮神社、朝日森天満宮、赤城神社、櫛崎八幡宮、下波垂八幡宮（二年御大典記念）各社に献木をいたしました。

『第四十回 神青協

一都七県関東地区総会

いまこそ日本の良き伝統文化を未来に伝えよう。

本県当番県

去る平成元年六月二十九日～三十日の両日に渡り、第四十回

神道青年全国協議会、一都七県関東地区総会が、関東の再北端・那須（会場・那須ビューホテル）の地に於いて開催されました。

今回は、我栃木県が当番県にあたり、当むすび会と致しましても、実行委員会（委員長・上野喜則氏）を中心に、幾度となく念入りな会議を開き、開催に向けて着々と準備を進めてまいり、万端整った中盛りで総会を開催する事が出来ました。

日程による、第一部『総会』は、斎藤（哲）幹事の司会進行により進められ、先ず上野（喜）副会長の開会の辞に始まり、「神宮遙拝」、国歌合唱「敬神生活の綱領唱和」と続き、当木県青年神職むすび会のより築き上げられ培われて

若松会長は挨拶の中で「関東地区総会も今回で四十年目を迎える事になるが、この節目の年に、過去四十年の遙みた時に、戦後の混乱

地区を中心を目まぐるしく発展の途をたどっている中日本文化の基となる神社が中心となり、日本人の心にうるおいとやすらぎをあたえるべく、心のコミュニケーションの場として供す事のできる神社を目指し、これらを目標として達成できる

表がなされた。当県は金子事務局長より発表がなされた。

統いて、「神青協神宮式年遷宮の心を守り伝える委員会」第二次遷宮委員会の活動報告を、（関東地区選出委員）椎名大文氏が、又活動方針を（委員長）石川正人氏が発表された。

期から現在に至る迄の間、我々の諸先輩方のご努力により築き上げられ培われて

きた事を、今我々青年神職は若い力を結集し、一致団結をして大切に守っていかねばならない」と力強く述べられた。

次に栃木県神社庁毛利副庁長より、神青協に対する大きな期待と励ましのご挨拶が述べられた。

更に、神青協小林会長に代わり神青協副会長の篠直嗣氏が、又地区理事を代表して、小佐野正史氏がそれぞれ挨拶をされた。

続いて来賓を代表して、当むすび会相談役の柳田耕太氏は、「時は今、平成という新しい時代に入り、多様の分野に於いて、とどまるところを知らず、関東

地区を中心を目まぐるしく発展の途をたどっている中日本文化の基となる神社が中心となり、日本人の心にうるおいとやすらぎをあたえるべく、心のコミュニケーションの場として供す事のできる神社を目指し、これ

様、我々青年神職は氣概と情熱を以って萬進すべき大切な時期に來ている。」と祝辞を述べられ、会も盛況に達した。

又「東京・関東地区御遷宮啓蒙活動委員会」の活動報告を（実行委員会事務局）石川国樹氏が発表された。尚、質疑応答については、時間の経過により割愛された。

最後に、次年度の開催県である埼玉県神青協副会長の鈴木邦房氏よりの挨拶、澤井隆男神青協副会長の発声によると、「万歳三唱」と続き、當むすび会副会長の「閉会の辞」により第一部総会は終了した。

次に、「神青協四十周年記念事業実行委員会」の計画概要について、挨拶を含めの説明が（実行委員長）鈴木昭樹氏よりなされた。

第二部「講演」は、（国学院大学助教授）坂本是丸先生を講師としてお招きし、「近代の皇室祭祀と日本の伝統文化」と題して、ご講演いただき大変実の有るお話を拝聴できました。

平成元年度

むすび会 事業報告

自 平成元年4月1日
至 平成2年3月31日

四月三十日	むすび会役員会
四月二十六日	神青協定例総会
四月二十八日	むすび会幹事会
四月二十九日	会員神社手伝い
五月一日	むすび会定例総会
五月十一日	相談役会
五月十六日	一都七県連絡協議会
五月二十一日	栎の実学園神棚祭並慰問
五月二十六日	むすび会幹事会
五月三十日	神青協関東地区総会
六月二日	一都七県神社庁野球大会
六月二十日	県央部植樹
七月三日	むすび会幹事会
七月三日	神青協夏期セミナー
七月四日	会員神社手伝い
七月九日	氏青ソフトボール大会
七月九日	千葉県神青協四十周年大会
七月九日	一都七県連絡協議会
七月十日	むすび会OB会員ゴルフ
七月十日	むすび会役員会
七月十日	即位の礼署名運動
七月十一日	会員神社手伝い
七月十一日	むすび会忘年会
七月十三日	東京都神青四十周年大会
七月十五日	むすび会幹事会
七月二十五日	一都七県連絡協議会
七月二十一、二十二日	神青協中央研修会
三月十七日	むすび会幹事会
三月二十三日	一都七県連絡協議会
三月二十三日	神青協中央研修会
三月二十一、二十二日	神青協中央研修会
三月二十一、二十二日	むすび会幹事会
三月二十七日	一都七県連絡協議会

二十四名	十二名	二十六名
二名	四名	四名
十四名	三名	八名
四名	一名	十三名
二名	一名	十三名
十一名	二名	二名
十四名	二名	二名
三名	九名	二名
三名	三名	二名
三名	三名	二名
二名	二名	二名
一名	九名	二名
一名	八名	十三名
二名	一名	十三名
二十四名	二十四名	二十四名

那須ビューホテル	神社本庁	（宇）二荒山神社	護国神社	二荒山神社	宇都宮	那須	神奈川	護国、八坂、八幡宮、（宇）二荒山神社	埼玉県三神社	乃木神社	神社本庁	東武動物公園	西那須野	千葉	神社本府	ロイヤルC	（宇）二荒山神社	大前神社	大前神社	大前神社	大前神社	神社本府	鬼怒川	神田	（宇）二荒山神社	石川県金沢市	全国神社会館
----------	------	----------	------	-------	-----	----	-----	--------------------	--------	------	------	--------	------	----	------	-------	----------	------	------	------	------	------	-----	----	----------	--------	--------

宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	○神社名	鎮座地	事業概要	
荒井 滉綱	(黄金こまいぬ奉納) 神門新築	安住神社 塙谷郡高根沢町		白鷺神社 河内郡上三川町			愛宕神社 芳賀郡茂木町大字坂井		倉庫新築	大前神社 阿部 康夫			真岡市東郷 柳田 耕平			丸井紙店 代表者有泉次郎	西八代郡市川大門町 和紙製造印刷加工		札札札守守守失紙麻一 神木全御フルチ一護半大カ 符守通欄スニ護書紙テッ 神御交金フリビ守奉色ス									
宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	宮司名	○神社名	鎮座地	事業概要	
河内郡上河内村今里	羽黒山神社	本殿・弊殿・拝殿 板垣 重敏	板垣市沼和田町	日枝神社 本殿・弊殿・拝殿 板垣 重敏	本殿・弊殿・拝殿 板垣 重敏	河内郡上河内村今里			大前神社 阿部 康夫	大前神社 阿部 康夫		大前神社 阿部 康夫	大前神社 阿部 康夫		大前神社 阿部 康夫	大前神社 阿部 康夫		大前神社 阿部 康夫	大前神社 阿部 康夫		大前神社 阿部 康夫	大前神社 阿部 康夫		大前神社 阿部 康夫	大前神社 阿部 康夫		大前神社 阿部 康夫	
横山 尚大	鳥居・境外社新築 芳賀郡益子町北中 八幡宮	芳賀郡益子町北中 八幡宮																										

祝 御 大 典

紀元二六五〇年

県内神社で行われる
御大典記念事業の紹介
(神社本庁より承認になつたものより)

平成二年一月～平成三年六月迄

授与品奉製

伊勢の



株式会社

神路社

伊勢市岩渕二丁目5番29号(私書函26号)
TEL 0596-24-5858(代表)
FAX 0596-24-5110

全国各神社
栃木県神社庁 御用達

西八代郡市川大門町

和紙製造印刷加工

謹製

丸井紙店

代表者有泉次郎

〒409-36
電話 市川大門 (0552) ② 01362
振替 (甲府) 6-2275
取引銀行 山梨中央銀行市川支店
第一勵業銀行甲府支店

○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	天照大神宮 真岡市熊倉町 拝殿・手水舎他新築 柳田 耕平 越口 正一	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	八幡神社 下都賀郡壬生町大字壬生甲 本殿覆屋 黒川 正邦	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	愛宕神社 下都賀郡大平町大字上与 本殿覆屋 黒川 正邦	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	今宮神社 塩谷郡氏家町馬場 板垣 重敏
○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	高久神社 那須郡那須町高久甲 拝殿・弊殿改築 清水 義治	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	客人神社 下都賀郡大平町下皆川 拝殿改築 熊倉 徳明	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	竜神社 小山市大字鉢形 本殿上屋改築、 角田 馨一	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	愛宕神社 宇賀神 秀雄
○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	近津神社 上都賀郡西方村大字本城 社務所改築 金子 信彦	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	嚴島神社 下都賀郡岩舟町大字静戸 本殿・拝殿模様替 大宮 年雄	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	温泉神社 那須郡塙原町大字下塙原字門前 本殿・拝殿改築 君島 豊	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	水川神社 小山市大字栗宮 本殿・弊殿・ 沼部 正昭
○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	黒磯神社 黒磯市宮町 末社の改築 月江 寛智	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	温泉神社 那須郡塙原町大字下塙原字門前 本殿・拝殿改築 君島 豊	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	温泉神社 那須郡黒羽町大字大輪 社務所新築 中山 邦	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	以上 平成二年一月から翌 平成三年六月までの 神社本庁より承認に なった各事業を掲載 いたしましたが、今 後もそれ以外の県内 各神社におきまして、 数々の記念事業が、 行なわれるものと 思われます。
○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	天満宮 芳賀郡芳賀町大字西水沼 祈禱受付事務所新築 沼部 正昭	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	稻荷神社 小山市大字塙崎	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	温泉神社 那須郡黒羽町大字大輪 社務所新築 中山 邦	○神社名 鎮座地 事業概要 宮司名 宮司名	社務所新築 金井神社 下都賀郡国分寺町大字小金井

我が国一世一代の御即位儀礼（御大典）に關しましては、國の内外よりの多大なる奉祝をうけ、美わしく執り行われました事は誠に喜ばしい限りであります。

しかし一方では殘念ながら、左翼派名のる愚人どもの低次元の思想から生じた、過激的なテロ活動に依つて、多くの神社や公共施設、又、一般家庭に至る迄被害を蒙つた。特に、我々日本人が精神的より處として昔から崇められて參つた神社が標的とされ、物・心共に大きく傷つけられ、尚かつ大切な文化遺産とも失つてしまつた事は、誠に殘念であり神職として心底から怒りを覚えるのであります。

我々は、この怒りと遺憾の思いの中、今こそ天地悠久の大道である神道の真意を広く世に明らかにする事により、今後あの様な愚人どもを撲滅し、日本人として正しい人間の形成に寄与し、太平の世を築き上げる務めねはならぬ事を痛感して止まない。

惜しくも、此の度び災を蒙つた乃木神社様には、遅れ馳せながら県内神職会員一同、心からお見舞を申し上りますと共に、一刻も早い再興と御社の益々のご隆昌をお祈り申上ります。



神社授與品
記念品奉製

株式会社長谷川製作所

代表取締役 長谷川和夫

東京都北区堀船三丁目二〇番十三号

電話 東京 03 (3912) 6161番

◆ 交通安全御守護 ◆ 開運招福鈴 ◆ 文鎮・金盃 ◆ 各種記念品類

◆ 御社頭授与品 ◆ 立案調製 ◆ 御参拝記念品

● 技術と信用 鈴木徽章工芸株式会社

本社 〒113 東京都文京区弥生2-12-1
電話 東京03-3814-1811(代表) FAX03-3818-8332



神社正面鳥居より社殿を望む

乃木神社乃木別邸 被災について報告と御礼

乃木神社

宮司 重田 正美

去る、平成二年十月二十八日の乃木神社弊殿及乃木別邸の被災に際しましては、本庁、神社庁をはじめ県神社関係の方々、崇敬者の皆様には多大なる御見舞、御激励を賜り、この場をお借り致し、深甚なる感謝を申し上げます。

当口は私が当直にて、前日まで当社関係者の研修旅行で、昭和天皇様の御陵を拝し、過激派ゲリラにより焼失にあつた、南陵会館を

見て帰ったばかりで、又夕刻のニュースの村松教授宅放火が頭にあり、火災報知器により起床した時は「やられたか」との予感がありちょうど方向が同じ事が幸いしたのか、拝殿ガラスが赤々と光っているのを確認。別邸母屋よりの警報が頭にあるのをとどめ置きながら、八月に増した神饌所にある、消火器をたよりに、拝殿まで急行すると弊殿東隅（当社は南西向）

より炎を確認。神饌所消火器をあ

神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 力男

〒409-36 山梨県西八代郡市川大門町6, 237-11
電話 0552 (72) 0514番
FAX 0552 (72) 8818

営業種目

神職装束・神楽装束・稚児装束・時代装束・祭器
調度品・神与・乳娘・御台車・記念品類各種
染織品各種・室内装飾調度・袋物・御家庭用御宮・御靈車

創業寛永年間
宮内庁御用達

(株)高田装束店

東京都千代田区九段南3丁目9番4
郵102 TEL 03 (3261) 1201・9602
FAX 03 (3262) 1789

てると鎮火に及んだので、社務所にもどり、軽トラックにて別邸へ燃えて居り、火の手は天井にまで達していたため、社務所にもどり消防署へ通報。再び別邸へかけたときは、母屋の四分の一に火がまわって居り、別邸付近の人もやっと気がついた程度で、かけつける段階ではなかった。消防の到着も迅速であつたが、消防到着の時には、母屋の半分が、火の手は屋根づたいに、四分の三程度に達していたようだ。

数時間前までの強風が、嘘のよ

うに無風だったこともあり、類焼

なしと判断。一礼し、警察官をさがしに社務所へ徒歩でもどるときの時間の長さと暗闇でつまづくこと数度に及んだことを覚えている。

社務所手前の神札所まできたところ、数日前に社務所にて懇談したばかりの警察官に遭遇し、人目

をさけるように弊殿に案内し、焼け残ったボリ容器を見せ通報を完了した。

が被災をうけたとは思って居りません。このことはもっと広く知つてもらう必要があり、高所からの行政手段を切に望みます。

別邸復興につきましては、復元設計がほぼ終了の段階に至り、詳細部分の検討を進めて居ります。

又、度重なる本店よりの支援金日々ご参拝の方々よりのご清財、誠に以って有難く存じて居ります

神社職員、総代、関係者一同、一日も速い復興に向けて一丸となつて進めて居りますれば、今後共一層の御指導方、宜敷お願い申し上げる次第でございます。



無残にも焼失された乃木別邸

この事件により、県内神社関係者の皆様にも当社同様の御心労が続いたと伺つて居り、当社ばかり

その後二週間、多くの方々を現場に案内申し上げたが、弊殿の鎮火は、御祭神のお力によるものとしか思ひようがない。



創業 80余年
おみくじ機
おみくじ
(有) 女子道社

〒745-03 山口県都濃郡鹿野町
TEL 0834-68-2001
FAX 0834-68-2958

創業130年
各種御神符・守札
その他授与品全般
湊御神符奉製所

伊勢市神宮会館前(〒516)
電話 (0596)22-2442(代表)
FAX (0596)28-8445



奉 祝

紀元一、六五〇年の

慶賀の年。

橿原の宮の大祭典に、
当むすび会を代表致しまして、
稻寿氏・石川隆穂氏のご両人が
祭員としてご奉仕されました。

紀元一千六百五十年祭

に奉仕して

石川 隆穂

全国各地より集まる若武者等、

雨の中、傘をさしての奉祝祭習礼
を行ない、心同じくする者の、吉
野山での精進潔斎の甲斐あって、
奉祝祭当日は目が覚めるばかりの
晴天ありました。

平成二年九月二十七日、神武天

皇がここ奈良県は橿原の地に、御

即位なされてより一千六百五十年、
秋晴れのすがすがしい朝日を浴び
て、橿原神宮様と神道青年全国協
議会が一体となり、紀元一千六百
五十年奉祝大祭の当日でございま
す。

各種授与品、記念品奉製

金欄錦守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒310 水戸市袴塚3-4-2
電話 水戸(0292) 51-2051㈹
FAX 水戸(0292) 53-5844

神祭具・御装束一式

高田善次装束店

〒101 東京都千代田区神田須田町1-17

加藤ビル2階

電話・FAX 03 (3251) 1869

各々着装をし、山田宮司様率主
以下祭員百余名、斎服姿にて斎館
前に一同整列、合図にて参進、祓
戸までの間四百メートル位、玉砂
利を踏みしめる足音が一緒に聞こ
えるようになってからは、回りに
森が有るからでしょうか、雄大な
ものであります。

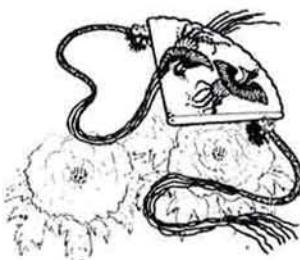
私の所役は手長の五、山田宮司
様祇候座の前でございまして、祭
員四十五名による伝供、二十分位
待ったでしょうか、自分の位置ま
で神饌がきたときには、記念すべ
き祭典の一員だと言う思いでござ
いました。

前日、二十六日には、権原文化
会館に於いて、記念式典、記念講
演（黛 敏郎先生）と行なわれ、
神武天皇に縁りのある、又御大典
とも関係の深い大和舞、久米舞、
国栖奏と、なかなか見ることのな
い神事芸能も、拝見する事ができ
ました。

祭典は次々と進行、祝詞奏上に
続き、神青協祭詞奏上、神樂（扇
舞）、君が代、紀元奉頌の歌、玉
串拝礼、撒饌、閉扉と延べ二時間
位の、厳肅として盛大な祭典とな
り、我々関東地区は、幸にも若い
番号であり、参進、着座など前列
の方であります、より一層緊張
する中で、貴重な体験をすること
ができました。



祭典奉仕を前に全員整列



てはならないでしょう。
道中、ご一緒させて頂きました
稱宜さんには色々とお世話にな
り、ありがとうございました。

追而
むすび会又会員の、益々の
活躍を、お祈り申し上げま
す。

神殿・神祭具

—製作販売—

神社及教会社殿・屋外神殿・結婚式場神殿及調度品
かやぶき神棚・各種神棚・神祭具・名宗御靈舎

 株式会社

宮 忠

本社 伊勢市岡本1丁目(外宮前)

TEL (0596) 28-0412

FAX (0596) 28-9690

工場 伊勢市外玉城町久保

TEL (0596) 24-0128

全国神社授与品記念品奉製

神矢・絵馬・幸鉢・招福熊手・緑起物
錦札守・交通安全・金属各種守木札守
十二支守・土鈴・初宮詣り・七五三用品
御一報次第カタログ御送り致します

大阪の

 グリーン産商株式会社

代表取締役 柚木 忠

〒547 大阪市平野区平野西4丁目8番29号

電話 大阪 (06) 702-6009番代

FAX 大阪 (06) 797-5896番

新役員

議長	上野 喜則	白鷺神社 権祢宜
監事	柳田 文司	(宇)二荒山神社 権祢宜
監事	金子 宗生	(日)二荒山神社 権祢宜
監事	加藤 直人	大前神社 権祢宜
会計	小島 敬教	八幡宮 宮司
庶務	星野 芳典	乃木神社 権祢宜
監事	斎藤 哲男	(宇)二荒山神社 権祢宜
監事	中山 光明	(日)二荒山神社 権祢宜
監事	堀口 邦夫	大田原神社 権祢宜
議長	和彦	栃木県神社庁 錄事

新幹事

宇河支部	小島 敬教	八幡宮 宮司
芳賀支部	小幡 正之	(宇)二荒山神社 権祢宜
塩谷支部	石川 安一	大前神社 権祢宜
南那須支部	安住神社 権祢宜	安住神社 権祢宜
北那須支部	人見 文治	温泉神社 権祢宜
上都賀支部	篠原 正宏	今宮神社 権祢宜
古峯神社	田原 経三	(日)二荒山神社 権祢宜
下都賀支部	阿部 修一	古峯神社 権祢宜
新井 巖	小林 靖	(日)二荒山神社 権祢宜
安佐・足利支部	太平山神社 権祢宜	太平山神社 権祢宜
唐沢山神社	唐沢山神社 権祢宜	唐沢山神社 権祢宜

むすび会新役員 及び 幹事名

(平成三年四月現在)

「新会長挨拶」

栃木県青年神職むすび会会長



上野 喜則

此の度、若松会長のあとを受けまして、不肖私が会長の重責を担う事となりました。責務の重大さを認識し、任期二ヶ年の間全力を尽くす所存でございますので、何卒宜しくお願ひ致します。

本年は、二十一世紀迄十年となり、世界の秩序・体制も大きく変化し、新時代に向けて動きだしております。来るべき二十一世紀を前に、この十年が神社界においても正念場であり、神社興隆、発展の為の礎を創る重要な時期であると考えます。

我々はその意志を継ぎ、自己研鑽、社会教化、親睦交流を中心として活動を続けておりますが、創立三十周年の節目の年に当り、改めて本会のはたすべき役割と、将来に向かってあるべき姿を考える時にきています。

さて、来年は、本会が誕生して三十周年の記念すべき年を迎えることになります。本会は昭和三十七年、青年神職こそ

人に遷宮の意義を理解して頂くよう啓蒙活動を開いて行く必要があると思います。さらに本年度より当県が、一千万家庭神宮大麻奉斎運動の指定県となり、本会としても継続事業である大麻頒布増体運動を推し進めて参ります。

日本人は今日、時代の著しい変化の中で、心の指針を失い精神的に不安定になっており、二十一世紀は正に心の時代と言われております。これからがいよいよ神社神道の役割が大きくなつて参ります。新时代に向かって、今我々のなすべき事は、日本の麗しい歴史、伝統、文化の继承者である神社神道を、より興隆させ次の世に確実に守り伝える事であります。創立三十周年を目前に控え、むすび会の新たな出発の為に、我々は更に自己研鑽を積み、神道青年としての情熱と行動力をもつて、斯界発展の為に全力を尽くしたいと思います。会員各位の絶大なるご協力をお願い申し上げます。



関東地区理事 本県より 稲寿氏が就任!

「ごあいさつ」

関東地区理事 稲寿

寿

平成三年神青協第四十三回定例総会に於て地区選出理事に就任しました。もとより浅学非才の身ではあります、会員諸兄の絶大なご指導ご鞭撻を賜わりますよう

何卒よろしくお願ひ申し上げます。推進委員によりまして、具体的な活動の実施を開始することになりました。

神青協の今期の大きな目標といたしましては、平成五年秋に斎行されます第六十一回神宮式年遷宮の啓蒙運動であります。これは神宮式年遷宮の“こころ”を守り伝える委員会が中心となりまして啓蒙運動の実施について準備が進められておりますが、各地区より選出されております遷宮委員と

伝達に努めてまいりたいと存じますので、何卒ご協力の程を節にお願い申し上げます。

この関東地区は全国に於ても、中心的役割を担つておる地区です。会員一人一人の協力なくして先輩会員であります神青協の将来を考える委員会また特別委員会として事業委員会をもうけ、神青協の将来について長期にわたつて研究検討を開始して、これから事業の在り方につきましても調査、検討をお願い申し上げごあいさついたします。



神社・仏閣用御守の企画・製作
各種金属製品の企画・製作販売

株式会社 阿部

本社・工場 〒349-13 栃木県下都賀郡藤岡町藤岡213-7
TEL (0282) 62-1010(代表)
FAX (0282) 62-2061
東京営業所 〒111 東京都台東区駒形1丁目12番10

県内各神社様、工事拝命先 (順不同)

日光東照宮	氏家今宮神社
日光二荒山神社	矢板木幡神社
宇都宮二荒山神社	小川温泉神社
真岡大前神社	足利樺崎八幡宮
大田原那須神社	佐野人丸神社
西那須野乃木神社	足利一社八幡宮



株式会社

小西美術工藝社

〒321-14 栃木県日光市山内2362 TEL 日光(0288)54-1198(代)

各種委員会決定!

教化・研修委員会

委員長
副委員長
委員

石齊 篠田 阿稻 中金
川藤 原辺 部子 宗生
安正 康一 光明
一洋 広丸 夫寿 明生

広報文化活動委員会

委員長
副委員長
委員

小田 菱新 堀小星
幡原 沼井 口林野
正経 至邦 芳
之三 広巖 夫靖典

事業・親睦委員会

委員長
副委員長
委員

人大 上永 齊阿長
見野 野田 藤部
文房 武弘 哲修和
治典 男幸 男一彦

むすび会三十周年実行委員会

委員長
事務局
委員
員計長

星長 金稻 小加柳
野子 島藤田
芳和宗 教直文
典彦 生寿 敬人司

神社仏閣飾金具・屋根葺工事

有限会社 鈴木鎌金具工芸社
取締役社長 鈴木重信

〒321-14 本社 栃木県日光市東和町57の1
TEL (0288) 54-2383
作業所 栃木県日光市東和町62の1
TEL (0288) 53-1121
FAX 0288 (54) - 3263

絵馬・御札・神社授与品専門店



株式会社 晃栄商会

代表取締役 小杉高士

〒321-14 栃木県日光市所野1388番地
電話0288(53)4186 FAX0288(53)4488

員 神社・祭礼紹介

その一

塩竈神社

補宣伊藤文雄

御祭神

○○○ 塩土翁命
○○○ 武甕槌命
○ 経津主命

祭礼日

○○○ 十月二十日・例大祭
○○○ 七月二十日・八坂祭
○ 十二月十五日・冬渡祭



一五八〇年に現在地に移転遷座され、天保二年（西暦一八三一年）には御社殿が修復された事が記録されています。又現在も矢板には塩田・高塩の地名、御本社の小字名や、スガマ橋（シオガマがなまつたといわれている）等の名称が残って居り、当神社と地域社会との深い結びつきを物語っています。

そんな中、当社に昔から伝わる祭典として特に盛大なのが夏の八坂祭であります。前夜祭には当番町内を中心に山車が練り歩き、当番には御輿をかつぎに各町内より約二百名の若者が集まり、町内山車を従えてかけ声や祭り囃子の音も高らかに、町内を一巡し氏子の家内安全、無病息災等を祈願し、渡御の祭も最高潮に達し町内一丸の熱気を感じます。

その他当社で行われる祭典には節分祭・春祭・秋祭・冬渡祭。又変わったものでは、今の時代を反映して“交通安全講”と言うものがあり、約千名の講員で構成され毎年九月十日に祈願祭が行われる等、年間を通じ様々な祭典が一応に厳修され、それぞれの賑わいを見せてています。

当社の由来は、伝説等によりますと、旧は「日本一社下毛国塩竈神社」といわれ、塩土翁命（神話の人）も三万五千人を有し、矢板の氏神である当社の氏子数も五千

さて矢板市は、旧矢板町・泉村・片岡村の一町二村が合併し、現在の人口も三万五千人を有し、矢板

会員

神社・祭礼紹介

その二

今宮神社

(旧県社)

権禰宣 篠原正宏

私の奉仕しております神社は、日光二荒山神社の大神を祀ったものであり、二荒山神社にくらべて創建年代が少し新しいことから、

「今宮」と称されたと伝えられる。

当神社は約四百五十年前に御鎮座され、明治に神仏分離令が出されまで日光今宮大權現と呼んでおりました。

主祭神は「大己貴命・田心姫命・昧耜高彦根命」の三柱の神であります。

さて当神社で斎行されます主な祭礼としましては、毎年十月九、十日の両日に渡り行われる例大祭（鹿沼の秋祭りと呼んでいる）がありますので紹介します。一日目当日（十月九日）は、午前十時より例大祭式典を社殿にて執行、次に午後一時には拝殿内に奉置された御神輿に御神靈が遷され、午後三時頃から付け祭りの各町屋台が神社境内に繰り込み奉告祭が執り



行われた後、各々の提灯に火が入り市中引き廻しが行われる。この屋台の引き廻しは歴史的には然程古くなく、安永四年（一七七五年）鹿沼宿が宇都宮藩の戸田領に編入され、時代の移りと共に宿場の経済事情が好転し、各町内で競って彫刻屋台を製作する様になってからであります。屋台の彫刻も最初は彫り物の少ないものであります。だが、日光東照宮の絢爛豪華な建築の影響を受け雄大な彫刻屋台が多く出現する様になりました。

又十二月十日に執行される冬渡祭と一月十日に執行される春渡祭があります。当日午後四時頃「鎮火祭」が終了すると、お焚き上げ神事が始まり、「古神札」「福ダルマ」等に点火され九時頃まで続き、その間古式豊かな太々神樂が奉納されます。

さて、私は神社に奉職して五年目になりますが広義の視点で所感を述べさせていただきます。神社は昭和二十年の敗戦と共に、「神道指令」によって宗教法人となり新たな局面を迎える至りました。その中には、神話の否定、教育勅語の廃止があり、又神道は古来より家の中にあって親から子へ子から孫へと伝道されてきた宗教であると言えますが、核家族化により変化が現われてきました。更に「政教分離」の間違った解釈が横行し、その為に様々な問題が起こっており信仰形態は真底から搖るぎ始めていると言わざるをえません。

宗教には「經典」「歴史」「安心」「救い」「悟り」等があるが、神道の經典とされている「古事記」「日本書紀」は一体何を語ろうとしているのか、今一度噛みしめていかねばならないと思っています。そして私は神職とは日本の一番大切なところを担っているのだとう事を日頃感じるのです。

いまだ浅学、信仰心の至らない者ですが、何らかの形で「國家」「天皇陛下」の為にお役に立てる様、努力していきたいと考えております。

員

神社・祭礼紹介

その三

平出神社

(雷電様)

禰宜江部幸男

古い歴史のある平出神社(通称雷電様、別名平出雷電神社)は多くの人々の信仰の対象となっています。

御祭神、別雷之大神は開拓、殖産、雷除、嵐除、方除、災難除けの神にして国造、町造、村造から農商工業を御守護し、福富開運の幸を垂れ給うお社であります。

当社は仁和二年(西暦八八六年)

三月、延喜式内社、京都上賀茂大明神(賀茂別雷神社)の御分靈を鎮座申上げて以来、郷土民の悠久のご尊崇の誠が捧げられて参りました。

当社の御祭神は配神として伊弉



諸命、葦田別命、猿田彦命、大物主命、少彦名命、大山祇命、火産靈命、水速命、菅原道真公が祀られています。

享和二年には光格天皇の命により朝廷の公家が地方を巡回したとき、激しい雷雨に遭い、雷除、嵐除等の御利益を聞き、立ち寄って道中安全と農民安泰祈願をされてから益々の信仰対象神社として、尊崇されたのであります。元治元年に「雷電宮」と改称され、明治時代に入つて神仏分離令により、「平出神社」に改称されました。明治十二年村社に列せられ、神饌幣帛供進社に指定されました。

「別」は若いと解説されていますが、別雷之大神は、若い元気な神様で真心こめた祈願は必ず叶えくださると評判です。雷が落ち



ないよう多数の方々に信仰されております。現在、社地、境内地には由緒、祭日、特殊信仰、編額馬の由来、境内社の由来等書きしたためられた表示板が四ヶ所建てられております。社地、参道、公園には樹齢三、四百年を越える大老杉、夫婦杉、櫻等の樹木が立ち並ぶ、天保年間の石燈籠、日月鷲龍龜燈籠、忠魂碑、編額馬等があつて信奉者と共に偉大なる神の力に敬虔な心を持ってお参りされる姿が見られます。

境内社の帰国神社は幕藩体制をゆるがし農業一揆、粉搗り騒動で当地をはじめ近郷百姓、農民を救つた農義人が祀られて居る祠であつて農家の守り神として信仰されています。

会員 神社・祭礼紹介 その四

根裂神社

宮司 永田 弘幸

根裂神社は鎮座地を鹿沼市上石川五四四とし位置的には、東北自動車道鹿沼インターのやや南方に所在し、御祭神は、主祭神に根裂命、磐裂命、天津瓊々杵命等が祀られ配神としては、大日靈貴命、素盞鳴命、大山祇命、国常立命、火產靈命、岡象命、大雷命等が祀られ又境内社には、稻荷神社（宇迦之魂命）、大杉神社（大山祇命）が祀られ境外社には、雷電神社（大雷命）、磯部神社（磯部神）等が祀せられ、これらすべての神々が祀られて根裂神社と称されてこの上石川の氏神として氏子等に祀られています。

由緒沿革は、往古にこの石川の

地区に三つの川があり、そこに源泉星体を生じる三玉石が有り、この石を宝物として齋祀すると伝えられています。又、創立当時の石碑と推察される古石が一つありその石の表面に「星空大明神」裏面には「大同二年」と記されており、大同二年とは平安時代初期（西暦八百七年）でありその頃に星を齋祀し社名を星宮と称され祭祀され、今より千百八十四年前には本社が祭祀され現在に至るわけです。



文禄二年（安土桃山時代）に再建をし、又奥平美作守が宇都宮城主となるに及び社殿を寄進し鎮護神とし尊崇されその後嘉永二年（江戸時代）には、神祇官白川殿より正一位を賜ると共に副輪（文書）を下付され、明治二年に星宮から根裂神社に改称され、明治四十年五月三日に弊帛神饌料供進推定を受け、大正年間に前述の境内外の新築工事の申請をし、大正十年三月に竣工をし現在の建物が有るわけでございます。

平成二年十一月には、天皇陛下の御即位、御大典記念事業として拝殿の改築、並びに手水舎の新築を行い、拝礼設備の整備をし氏子一同が御大典の御祝いをさせていただきました。

これからは、往時に行われていた神輿渡御を復活させる事を目標とし、それと共に老朽化している設備を改善して、よりよい環境で氏子崇敬者等が拝礼できる様にしたいと思います。

最後に今まで同様に、上石川の氏神様に護られながら、御社と氏子等が永久に繁栄して行き、次世代の人々にも御神徳が賜われる様に氏子一同と共に力を合わせ氏神様を御守りしたいと思います。

しかし、長い年月には、災いもあり元久年間（鎌倉時代）に不幸にも火災により焼失してしまい、久しくの間は、荒廃していましたが、

祭礼としては、例祭日は、毎年十二月十五日で、前日の夜には、各部落ごとに当番の家に集まり、おひまち（前夜祭）を行い例祭日を氏子一同が心から喜び御迎えい

たします。

その他祭礼では、毎年九月一日に齋行する「天祭」「風鎮祭」が

あり、この祭礼は朝昼夜に、天小屋という建物の中に据え置かれた山車の内で、宮司以下氏子継代、

当番部落元番、自治会役員、氏子等その他崇敬者によつて、その年

の天候の無事、五穀豊饒、無病息災等を祈願し、執行いたします。

会員

神社・祭礼紹介

その五

鷦宮神社

禰宜 菱沼 至広



栃木市の北、都賀町に御鎮座する鷦宮神社は本々壬生町との境、小倉川（現在の思川）に面して大同三年に創建されましたが、承平元年洪水の為現在の地に遷座と伝えられています。御祭神は、大己貴命と天日鷦命の二柱の神様を御祀りしております。

鷦宮神社は昔からお酉様として親しまれ、毎年十一月の酉の市には近隣の町からたくさん的人が御参りに来られ、熊手や縁起物を受けていかれます。また、酉の市にだけ授与している御供物（米で作った卵の形をしただんご）は、食せば風邪をひかないでその冬が

越せると云われており、それを受けたいた家では蒸したり煮たりやわらかくしていただきております。

正直な話もつと身近でない、例えば猪肉だと鹿肉だと鯿や鰐等の普段の食生活にあまり馴染みのないものだったら楽なのになあとつくづく思う時があります。実際食堂で何か注文する時や、店で食物を買う時は鶏肉や鶏卵が入っているかどうか気をつけなければならないので、とても面倒です。

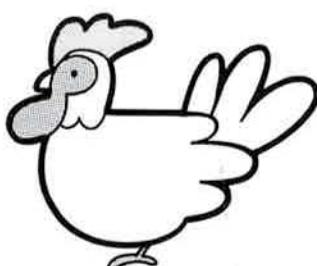
ただ、周りが思う程に食べたいとか、辛いとか感じる事はありません。それよりも鶏を口にしないと

いう事は、いつでも堂々と神様を拝める気持ちでいられるし、いつも神様のそばにいられるような、そんな気持ちにさせてくれます。

一月前、鷦宮神社に伝わる依田流太々神樂が都賀町の無形文化財に指定されました。一時は楽人が危ぶまれた程でした。これではいけないと若い人達が中心となつて吹く人のいなくなってしまった神樂笛を、遠くの神社まで習いに通っていました。私の場合も二十歳になったのを機会に鶏との縁を断ちましたが、最近、料理には鶏肉や鶏卵を使うものが多くなり、

正直な話もつと身近でない、例えば猪肉だと鹿肉だと鯿や鰐等の普段の食生活にあまり馴染みのないものだったら楽なのになあとつくづく思う時があります。実際食堂で何か注文する時や、店で食物を買う時は鶏肉や鶏卵が入っているかどうか気をつけなければならぬないので、とても面倒です。

ただ、周りが思う程に食べたいとか、辛いとか感じる事はありません。それよりも鶏を口にしないと神樂笛を吹く人のいなくなってしまった神樂笛を、遠くの神社まで習いに通うので活動も積極的で、今回の文化財指定も新しい人達が町に働きかけた結果でした。若い人達が神社行事に係つてくると、なんとか神社全体にも活気が出てくるもので、これから神樂連の活躍に少し期待しているこの頃であります。



「蹲踞」つくばい

瀧尾神社
権宜

増渕文男

古峯神社
権宜

「神恩感謝」

斎藤禎一

今日の住宅の庭は、地価の高いこともあるて、年々狭小化の傾向にあります。小面積でも落ち着きのある景をつくる蹲踞が、石灯籠とともに注目されていますが、蹲踞は、和式庭園の大切な構成要素の一つで、特に茶庭においては欠かすことのできないものです。

蹲踞というのは、身を屈めて手水

を使うところから出でている呼称で

す。はじめは、茶の湯の関係から茶庭に用いられたもので、茶事の折、一椀の茶をいたたく前に、清らかなる水で口を漱ぎ、手を洗つ

て、身だけではなく、心をも清めるという意味から考案創作され、発展していったものと考えられています。

手水鉢を中心とした蹲踞の構えは、茶庭では一つの見せ場でもあり、古茶人は、手水鉢の選定・構えには細心の注意を払いました。

神社の手水舎も、茶庭の蹲踞も、その精神は同一なのであります。

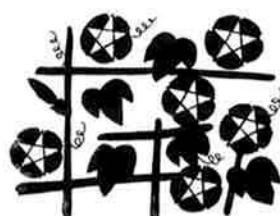
住宅の庭園に蹲踞を配する際にも、このようにあってほしいと考えるしだいです。

参拝・神明感謝・社会慣習・祈願・祖先崇拜・近年現世御利益の中、神前に額付き一心に祈りを捧げるご老人を見るたび、私自身の信仰を顧みずにはいられない。

白衣に身を包み取り澄した顔をして参拝者に接してはおりますが、自分の至らなさをつくづくと思う。

祝詞は朗々と、金弊の鈴の音は清らかで神々しく、祈る人の精神は最高に昂揚し、極度の緊張の張りは神との隔たりをもなきかの如く感じさせられる。

大御心は、清浄無私。



むすびの声

明治天皇御製二首
神葉にかかる鏡をかがみにて

わがくには神のすゑなり神まつる
昔のてぶりわするなよゆめ

祝

第一子誕生

堀 口 邦 夫
(神社庁録事並、千代ヶ岡八幡宮
宮司)

平成二年六月二日 舉式
於・大前神社

新婦 佳 子(よしこ)
●抱負・希望
笑顔の絶えない明るい家庭を
築いていきたい。

新婦 佳 子(よしこ)
●抱負・希望
やすらぎのある家庭にしたい
と思います。

永 田 弘 幸
(根裂神社 宮司)
平成二年十月二十七日 舉式
於・今宮神社

新婦 稚 子(ていこ)

●抱負・希望
これからは、二人で力を合せ、

本務社並びに兼務社の祭礼、運営、

氏子の教化活動に励み神明奉仕に
力を尽くして行きたいと思います。

阿 部 康 夫
第一子誕生
平成二年三月十四日生

長女 茗(もえ)



久 富 真 人

(日光二荒山神社 権称宣)

平成二年六月三日 舉式
於・福岡県城島町 青木天満宮

新婦 初 美(はつみ)

第一子
平成三年四月十一日生

長女 千鶴(ちづる)

狐 塚 泰 久
(古峯神社 権称宣)
平成二年十一月三十日 舉式
於・古峯神社

新婦 由 佳(ゆか)

●抱負・希望
明るい家庭を築きたい。

●抱負・希望
知らない事ばかりでスタート
してから半年が過ぎ、ようやく
私も少しづつ神職を理解し始め
てきましたが、まだまだわから
ない事ばかりですので、主人に
教わりながら身につけて行き、
氏子の方々と一日も早く打ち解
けられるようにしたいと思いま
す。

雨天の日に便利!

「祭典用 大傘」発売中!

頒布価格 1本 6,000円

●お申し込みは……

神社庁 堀口邦夫まで TEL0286(25)2011

新人会員紹介

〈平成元年度入会〉

石川 安一

(安住神社)

狐塚 泰久

(古峯神社)

人見 文治

(温泉神社)

伊原 弘之

(二荒山神社)

植竹 俊光

(山神社)

宮本 利治

(筑根神社)

〈平成二年度入会〉

伊藤 史辰

(護国神社)

香取 正義

(二荒山神社)

伊原 弘之



植竹 俊光



石川 安一



奉務先：安住神社（權祢宜）
生年月日：昭和四十年六月一日
趣味・特技：音楽鑑賞
好きな女性のタイプ：鈴木保奈美
好きな言葉：乾坤一擲

神職として神社に奉職はじめ
てから、まだ五年ですので、まだ
まだ勉強不足で、右も左もわから
ず、諸先輩方にも御無礼や到らぬ
点で、御迷惑等をおかけする事と

奉務先：日光二荒山（出仕）
生年月日：昭和四十二年五月十七日
趣味・特技：スキーコース
好きな女性のタイプ：森高千里
好きな言葉：男子三日会わざれば
刮目して見よ

奉務先：安住神社（權祢宜）
生年月日：昭和四十年六月一日
趣味・特技：音楽鑑賞
好きな女性のタイプ：鈴木保奈美
好きな言葉：乾坤一擲

存じますが、「むすび会」に入会
させていただいたからは、これ
からの神社界の為に、神明奉仕に
精進致す所存でございますので、
もとより「浅学非才」の身でござ
いますが、今後とも御指導の程、
よろしくお願ひ致します。

狐塚 泰久

奉務先：古峯神社（權祢宜）

生年月日：昭和三十七年六月二日

趣味・特技：スキーバധイビング

好きな女性のタイプ：鈴木保奈美

好きな言葉：特になし

奉務先：古峯神社（權祢宜）
生年月日：昭和三十七年六月二日
趣味・特技：スキーバধイビング
好きな女性のタイプ：鈴木保奈美
好きな言葉：特になし

さしあげた現在、自分は、神職として
の自覚も、やっと持つ始められた
と思うようになりました。今後も
奉仕するにあたり、神職としての
使命とも言うべき、敬神生活の網
領を常に忘ることなく、日々生
活していきたいと思います。日光生
で育った私にとって、この二荒山
神社の神職であるということを、
誇り思います。まだ、未熟で一人
前の神職とはいえませんが、努力し
、奉仕していきたいと思います。

御守・御札奉製

東洋工芸

〒321

宇都宮市石井町2551-6
TEL 0286(62)0043

社頭授与品専門奉製所

(主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁)

常陸神宝(株)

〒310 水戸市根本町1丁目53-4
☎(水戸) 0292(27)0511代
FAX(水戸) 0292(27)0512

最近、応援している球団の成績
が思わずないので、自分の方か
ら話題として提供するには勇気
がいるのだが、私はプロ野球の
が持

会報むすび

宮本利治

奉務先：磐根神社（権称宜）
私は、普段矢板市農協・燃料課に勤めているので、土・日曜日だけ自分の神社の手伝いをしています。趣味はゴルフで、今年自動二輪の免許を取ったのでバイクに夢中です。今二十五歳で独身です。

ファンである。何故、アマではなくプロなのか。それは、登場する選手の数が限られ、それで何年間も選手生活を続けるため、選手の個性を観察できるからである。アマの場合は、選手よりもチームに主眼が置かれてしまう。そういう視点でプロ野球と接してみて、私はここ一番に強い選手というのがいい。大昔だと、日本シリーズで大抜擢されていきなり起死回生の三ランを打った藤尾茂とか、最近だと、ブレークオフで二試合連続で代打で決勝打を放つ大田卓司とか、日本シリーズ三連敗の後、流れを変える完封勝利を飾った香田勲男とか、必ずしも名選手ではなくてもいいのだ。記憶に残る選手が多い。たとえレギュラーではなくとも、与えられたチャンスには確実に期待された仕事をこなす「いざ鎌倉」的な要素を持つ選手が多い。全試合に出場して常に脚光を浴びるのは絶対の憧れでありそれを許さないのなら、限られた時間、限られた機会に完結する「そんな選手がいい」。以上「むすび会」に入会するにあたっての所感を述べさせて頂きました。今後とも御指導御鞭撻のよろしくお願ひ致します。

奉務先：日光二荒山神社（出仕）
趣味・特技：映画鑑賞
好きな言葉：敬神生活の網領（の文）

今春より日光二荒山神社に奉仕させて頂いている香取正義と申します。今回栃木県青年神職むすび会に入会させて頂きました。国学院大学を今年三月二十日に卒業致しましたので、むすび会ではもちろんのこと神職としても新人です。下さる様御願い致します。

出身は千葉県佐原市で香取神宮の近くに住んでいました。先祖はやはり香取神宮で神職として仕えていました。現在私の実家は分家ということもあって花卉園芸の仕事をしています。

奉務先：日光二荒山神社（出仕）
趣味・特技：映画鑑賞
好きな言葉：敬神生活の網領（の文）

今春より日光二荒山神社に奉仕させて頂いている香取正義と申します。今回栃木県青年神職むすび会に入会させて頂きました。国学院大学を今年三月二十日に卒業致しましたので、むすび会ではもちろんのこと神職としても新人です。下さる様御願い致します。

奉務先：栃木県護国神社（権称宜）
趣味・特技：バレーボール・バドミントン等
好きな言葉：別になし

父の実家が神社であり、祖父と叔父の白衣、袴の姿を幼少の頃から見ていることもあって、高校を卒業し宮城県塩竈市に鎮座する波彦神社、鹽竈神社、神職養成所で二年の過程を経て今日に到ります。神社界の事は全く分からずに入所したため今までの生活とのギャップが激しく始めは苦労しましたが、祭典御祈祷等を奉仕させて頂いているうちに神職としての信念が養われ神職に誇りを得る様になりました。

神職の資格を得た今護国神社で奉仕させて頂いていますが、稻宮司の手足となり、神明奉仕に励みたいと思います。

奉務先：栃木県護国神社（権称宜）
趣味・特技：バレーボール・バドミントン等
好きな言葉：別になし

父の実家が神社であり、祖父と叔父の白衣、袴の姿を幼少の頃から見ていることもあって、高校を卒業し宮城県塩竈市に鎮座する波彦神社、鹽竈神社、神職養成所で二年の過程を経て今日に到ります。神社界の事は全く分からずに入所したため今までの生活とのギャップが激しく始めは苦労しましたが、祭典御祈祷等を奉仕させて頂いているうちに神職としての信念が養われ神職に誇りを得る様になりました。



伊藤史展

ます。どうかよろしく御願い致します。



香取正義

御装束・祭典用具・結婚式場設備・
舞楽装束の御用命は

宮内庁
栃木県神社庁

御用達 森装束店

〒160 東京都新宿区西新宿4丁目7番21号
電話 東京 03 (3376) 4631番

御結婚式場設計設備承ります。

大杉企画みくり工房

注連縄各種調製

地鎮祭用	27尺・32尺
鳥居用	6尺・9尺・12尺
家庭神棚用	3尺・6尺
真こも	3尺×6尺

東京都江戸川区中央4-5-23
TEL 03 (3655) 8980

退会者及び移動者

「定年退会」

(赤城神社称宣)

早乙女 昭 司

平成元年度

(神社庁参考)

長 倉 樹

(宇都宮二荒山神社権称宣)

横 山 仁 美

(大前神社称宣)

柳 田 耕 太

(日光二荒山神社権称宣)

柴 田 晴 美

平成二年度

(乃木神社宮司)

重 田 正 美

(滝尾神社称宣)

増 別 文 男

(姫宮神社宮司)

福 田 芳 高

編集後記

長期の間、会報の発刊に滞りが
ありました事を先ずもってお詫び
申し上げます。

今回の会報十五号は、平成の御
代に成りましてより第二回目の発
行と相成りますが、平成元年度か
ら翌二年度迄の合併号と解釈して
戴ければ幸甚に存じます。

さて月日の推移は早いもので、
その二ヶ年の間に当むすび会も数
々の事業(行事)を消化されまし
た。

「一都七県関東地区総会」は、二
年前に行なわれた行事であります

ゆえ今では記憶に遠く感じる處で
あります。我県が当番県として
盛大に開催した大事業であります
ので、是非今号に掲載させて戴き
ました。若干の時期のずれを感じ
ましょが、悪しからず御容赦願
います。



また昨年は、「御大典」・紀元
二六五〇年」という、我日本国民
にとりましては誠にもつて慶賀の
年でありますので、これらに関
連した記事。更に従来の「会員奉
仕神社紹介」「会員の声」等掲載

致しました。編集委員と致しまし
ても、かなり興味深くお読み頂け
るものと自負出来ますのも、取り
も直さず、ご多忙の中にもかかわ
らず心良く原稿のご執筆にご協力
を下さいました皆様のお陰と感謝
致しております。書中を借りまし
てお礼を申し上げます。

来年はいよいよ、むすび会設立
三十周年という記念すべき年を迎
えようとしています。会員一同
丸となり成功に向けて、諸準備を
進めて参る所存ですので、今後と
もご指導ならびにご協力の程宜し
くお願い申し上げます。

(三宮神社称宣)
板垣 彰

(古峯神社)
石川 隆穂

(古峯神社称宣)
石原 滋人
(星宮神社称宣)
大阿久岩人

(古峯神社)
斎藤 英之
(古峯神社)
戸辺 広之